

本年の大豆は、苗立ちが良好で、概ね順調に生育していますが、7/1の大雨による浸水等により、停滞水があるほ場も見受けられます。今後は、**排水対策**や**防除**（雑草・病虫害）等の基本技術を徹底し、生育量をしっかり確保して、品質・収量が高い大豆を目指しましょう。

1 排水対策

培土作業でできた**溝と額縁排水溝は必ず連結**し、ほ場に停滞水がないようにしましょう。

2 雑草防除

培土後も残草がみられた場合は、雑草の種類や生育状況、また大豆の生育状況を確認し、適期に除草剤を散布しましょう。

散布方法	雑草の種類	薬剤名	10a 当たり散布量	使用時期	使用回数
畦間・株間処理 (大豆にかけない)	1年生雑草	ロロックス(水和剤)	薬剤 100~200g 水 70~100L	・本葉3葉期(雑草草丈15cm以下) 収穫30日前まで	1回
		バスタ液剤	薬液 300~500ml 水 100~150L	・本葉5葉期以降雑草草丈生育期 収穫28日前まで	3回以内

注：畦間処理の場合、吊り下げノズルを用い、薬剤が大豆にかからないように散布してください。

3 病虫害防除

ほ場を巡回し、病虫害の発生状況に応じ、速やかに防除を行いましょ。

防除内容	防除時期の目安		対象病虫害	薬剤名	10a 当たり散布量
随時	葉が巻き始めたら		ウコンノメイガ (ハマキムシ) 	サイアノックス粉剤 (収穫7日前まで)	4 kg
				プレバソンフロアブル5 (収穫7日前まで)	4000倍 150~300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸びきった頃	8月上旬 ~中旬	紫斑病→ 	Zボルドー粉剤 DL	3 kg
				ベルコートフロアブル (収穫7日前まで)	1000倍 150~300ℓ
			紫斑病 カメムシ類  カメムシが多い場合	スミチオンベルコート粉剤 DL (収穫21日前まで)	3 kg
				ベルコートフロアブル + スミチオン乳剤 (収穫7日前まで / 収穫21日前まで)	1000倍 150~300ℓ
基本 (2回目)	1回目の 10~14日後	8月中旬 ~下旬	紫斑病・カメムシ類	Zボルドートレボン粉剤 DL (収穫14日前まで)	3~4 kg
				アミスタートレボン SE (収穫14日前まで)	1000倍 100~400ℓ
随時	8月中旬~9月上旬 (発生時)		フタスジヒメハムシ→ カメムシ類 	ダントツH粉剤 DL (収穫7日前まで)	4 kg
				ダントツフロアブル (収穫7日前まで)	2500倍 150~300ℓ

注：防除の際は、農業使用基準を必ず守るとともに、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょ。

※トレボン剤の使用は、基本防除も含めて2回以内です。

4 畦間かん水

- 開花期から9月上旬までの水不足は、莢数や百粒重の確保に大きく影響します。3日以上晴天が続いたら、土壌の乾き具合に応じ、**畦間かん水**を行いましょ。
- 畦間かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、**速やかに排水**してください。

畦間かん水の効果

1. 根粒活性の維持
2. しわ粒の軽減
3. 莢数や百粒重の確保 (減収を防ぐ)